最上の子どもたちのために
未来へ紡ぐ
◆ 最上教育事務所指導課通信
◆ 令和７年　２月　３日
◆ 最上教育事務所指導課
◆ 第　９　号

県外滞在マイスター研修　～秋田県東成瀬村の実践に学ぶ～

今年度、教科担任マイスターの先生方の中から県外滞在マイスター研修として、３県の先進校視察にご参加いただきました。最上地区からは舟形小学校の吉浦恭介教諭から、秋田県東成瀬村立東成瀬小・中学校での研修に計５日間ご参加いただきました。この東成瀬村立小・中学校での学びを２月５日（水）に行う学力向上オンラインミーティングで全県に向けて発信します。ここでは、その中から特徴的な実践例について２つ紹介します。

探究型授業の推進

東成瀬小学校では、大学機関とも連携し、深い学びに導く探究型学習を推進している。深い学びに必要な視点として、秋田大学阿部昇名誉教授の指導の中に、「自力思考」と「助言」がある。

「自力思考」…探究型授業では、展開において学び合いが行われる。そこに向け、教師の発問や、問題についてすぐに話し合いをするのではなく、必ず自分の考えを持つことができるよう「自力思考」の時間が確保されている。

「助言」…「弱め」「中程度」「強め」の助言がある。補助発問に近いものと考えられるが、児童の思考を促すものであり、いきなり強めの助言をするのではなく段階を踏んだ助言をすることで、児童の思考を促している。

事後研について

協議を２部構成とし、グループ協議Ⅰでは、グループ毎に各々が拡大指導案や協議シートに成果と課題について記載した付箋を貼る。全体共有の後、グループ協議Ⅱでは、共通課題を設定し、再度グループでの話し合いが行われる。

ワークショップ型で事後研が行われるが、成果よりも課題を中心とした協議が行われ、課題をどのようにクリアするのか、具体的な方策や代案を中心に話し合われる。褒め合いに終始しない点が特徴的だった。

★参加者の感想より★

- 東成瀬村での研修で学んだことは、本校はもちろん、他校にも伝達していきたいと思いました。子ども達の学びの拠り所になる学習スタイルを、研究主任と話し合いながら提案し、組織的に取り組むようにしたいと思いました。
- 東成瀬小学校では、全職員が子どもの姿で話し合う場面が随所で見られました。ベテランの先生からの指導だけでなく、若手の職員も多面的な視点から発言するなど、それぞれのキャリアステージの目線から意見を尊重し合うなど、「子ども」を通して、職員が一体となっているように感じました。
- 東成瀬村で行っている、保小中・地域・行政が一体となった「9年間の指導」を目指していくことは今後の一つの道筋になると感じました。また、教育委員会と学校とでフットワークの軽い密な連携を行い、常に子ども視点で支援体制を整えることで、より豊かな教育環境の中で育てることができると考えました。

２月５日（水）開催予定の**学力向上オンラインミーティング**では、県外滞在型マイスター研修について、以下の３県の報告が行われます。今後の校内研究の在り方について、ヒントを得る機会にしていただければと思います。

①秋田県 東成瀬村立東成瀬小・中学校	・先生方の同僚性が高く、授業研究が活発である。 ・小中連携を軸に研修を進めている。
②静岡県 藤枝市立高洲南小学校	・深い教材研究と子ども理解を軸に校内研究を推進している。 ・子供が主語の授業づくりに力を入れている。
③福井県 坂井市立東十郷小学校	・個と集団の深い学びを目指した協働学習を研究主題にし、振り返りを意識しながら、児童主体の学びを研究している。

県教育委員会計画指導訪問に学ぶ

大蔵村立大蔵小学校
金山町立金山中学校

令和6年度は、大蔵村立大蔵小学校、金山町立金山中学校の2校で、県教育委員会計画指導訪問を実施しました。計画指導訪問のねらいは以下の2点です。

（1）令和6年度の「山形県学校教育指導の重点」・「最上の学校教育指導の重点」に即して学校教育の現状を把握し指導行政の適正を期す。

（2）当該校の抱える諸問題を中心に協議を行い、その解決のための方向付けと学校教育の活性化を図る。

2校を訪問し、様々な良さを見ることができました。その中で特徴的なことについて紹介したいと思います。

【大蔵村立大蔵小学校】

地域と連携した教育活動の展開

〇取組み内容

・教育委員会と連携し人材リスト（顔写真付き）を作成し、職員が地域人材と地域の良さを把握

・総合的な学習の時間や生活科に加え、諸活動で地域人材を活用した体験活動を実施

〇成果

・学校職員が地域の人材を把握することで、計画に盛り込むことができた。

・児童は、地域の方々から様々なことを教わったり、体験活動を通して、ふるさとの良さやすばらしさを実感することができた。

【金山町立金山中学校】

一人ひとりを大切にした人間関係作り

〇取組み内容

・全校縦割り活動

・毎週木曜日のスリンプルプログラムの実施
（ソーシャルスキルと自尊感情の育成を目指すプログラム）

・各種アンケートを活用した定期的な相談活動

〇成果

・完全不登校から別室に登校できるようになった生徒がいる。

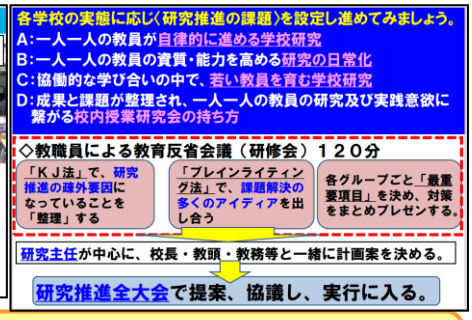
・生徒の様子について、複数の職員で情報を共有することで、多様な支援が可能になった。

・（生徒の声）学年の壁を越えて、生徒同士の仲が深まった。

最上地区校内研修特別講座

令和7年1月23日(木)
オンライン型研修

中堅教諭等資質向上研修教育事務所研修との共催で、今年度から初めて実施し、最上管内の小・中学校、義務教育学校、市町村教育委員会から34名の方々に参加いただきました。山形大学名誉教授中井義時先生より「次年度の校内研究の充実」をテーマに、4月までに学校全体で取り組むべきことについて講義を行っていただきました。スライド資料についても一部抜粋しましたので、ご参考になさって下さい。



講義より

◇子どもの「主体的、対話的で深い学び」と**同様に**教師の学びを考える
教材との対話→仲間との対話→自己との対話～まとめ・振り返り～

◇子どもにとっても、教師にとっても、学校とは**「仲間と共に夢と文化を創造するところ」**
何気ない日々のおしゃべりの中で、悩み事を受け止め、共感してくれる同僚の存在が大切

◇校内授業研において、授業者は、**探究的な学びの「教材提供者」**
参観者は、授業から「情報を収集」し、「整理・分析」「まとめ・表現」を行う

～参加された先生方の声～

・子どもたちの成長に喜びややりがいを感じることもそうですが、我々自身が日々学びながら、自らが成長できることにわくわくしたり、喜びや楽しさを感じられたりするような仕掛けが、管理職としてもっとできるのではないかと感じました。

・毎年のように、4月になると校内研究がゼロベースになってしまう状況だったので、引継ぎという視点を大切に、手法ではなく、コンピテンシーを大切にした校内研究を今から意図的に仕組んでいく必要性を感じました。

講義動画をオンデマンド配信しています（２月末まで）